

㊦ B—57 濡れにくい布を活用するおむつカバー改良について

福岡女子大 平松 園江

1. 交通事故や動脈硬化後遺症その他の排泄器障害のため失禁，または，これに類した状態になっている者があり，当事者看護者の悩みの種である。これ等の人の用いるおむつとおむつカバーについて工夫創案し，改良につとめた。在来の木綿のおむつは排泄された尿は速かに吸収し，局部からひろく拡散し濡れの面積は排尿直後にくらべ著しくひろくなり，そのため皮膚炎をおこすことが多い。肌にふれる部分はできるだけ濡れている面積を少なくすることは種々の意味で衛生的であるので，テビロン，木綿のおむつと特殊のカバーを組合わせその用い方を検討する。

2. 1) 濡れにくい合織中で廉価なテビロンと木綿の30番20番の糸で織った，平・綾・朱子，バースアイ織，メリヤス編の布を3×20cmにたて，よこ試料をつくり，一端を水，汗尿成分の主なものをふくむ液に浸し，他の端を固定し，その水分の上昇状態を時間的に比較する。

2) 創案の特殊のカバーに木綿 30×150 cm の布を8枚に折って入れ、この上にテビロンおむつ 30×150 cm を四つ折にしてのせ使用させる。

3. 1) 布の水分の吸上速度はテビロンと木綿では大きな差がある。

2) 脊椎カリエスの合併症として膀胱直腸の障害のため、尿尿の失禁を来たしているため常時湿潤し、そのため皮膚炎をおこし1年以上諸種の治療をなし、治癒しなかったのが、この試案の物を常用して治癒し、再発しない。